

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部 文化学科
学年(出発時)	3
大学名	University of North Caroline Wilmington
国	アメリカ合衆国
留学期間	2017年 8月 6日 ～ 2018年 5月 3日
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
	授業
9:00	
	友達と朝食
10:00	
11:00	
	授業
12:00	
	授業(12:30-14:30)
13:00	
	授業(12:30-14:30)
14:00	
	授業(12:30-14:30)・図書館
15:00	
	図書館
16:00	
	図書館
17:00	
	図書館
18:00	
	友達と夕食
19:00	
	図書館
20:00	
	帰宅
21:00	
	ルームメイトと過ごす
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Principles of Marketing	2時間半	3	英語	座学・レポート・試験2回・最終市場戦略案作成
Integrated Marketing Communication I	3時間	3	英語	座学・レポート・試験2回・大学宣伝プレゼン
Creativity and Innovation	5時間	3	英語	座学・レポート・試験2回・フィールドワーク
Public Speaking	9時間	3	英語	座学・プレゼン・試験2回
Negotiation	3時間	3	英語	模擬交渉(毎授業)・クイズ・宿題(毎回)・試験2回
Professional Selling	2時間半	3	英語	座学・クイズ・模擬販売・試験2回
Consumer Behavior	4時間	3	英語	座学・クイズ・試験2回(発言多め)
Introductory French I	2時間半	3	英語/フランス語	座学・レポート・宿題・試験2回

大学のサポート	
チューターの有無	有
チューターのサポート内容	街の中を一緒に見学・買い物での送り迎え・授業内容の質問
語学コースの有無	無
コース名、料金、期間等	

生活	
住居のタイプ	学生寮
住居の名前	University Suites
部屋タイプ	ダブル
ルームメイト(国籍)	オーストラリア(1学期)・トルコ(2学期)
室内設備	冷蔵庫・クローゼット・ベッド・棚付き机・たんす・エアコン・暖房・電気
共用施設	ジム・プール・食堂・洗濯施設・学生郵便局・パスポート局・その他
インターネット設備	Wifiあり(回線良し)
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	不要(寮が大学内にあるので、目的の校舎まで徒歩約10分)
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	J-1
Visa申請先	大阪府パスポートセンター
Visa取得にかかった日数	約1週間
Visa取得にかかった費用	\$ 160 + SEVIS料
Visa取得方法、提出書類等	大使館HP(J-1Visa申請書類)
留学先大学の最寄り空港までの経路	関西国際空港→ホノルル空港→アトランタ空港→ウィルミントン空港
渡航費用	約17万円
ピックアップサービスの有無	有(チューター)

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	無(留学前までの取得単位数にもよる)
有る場合、その理由	
就職活動開始時期	2019年3月予定
帰国後の進路	EU国内でのインターンシップ後、そのままEUで就活

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	米ドル
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	約27万円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	約5万円
宿舍費(月額)	光熱費・食費と合わせて、一年で計約50万円
光熱費(月額)	上記
食費(月額)	上記
その他	渡航費(約35万円)・外食(計約2万円)・娯楽費(約2万円)
留学期間中にかかった費用の合計	約121万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

一言で今回の留学をまとめると、お金では買えない本当に良い経験でした。語学勉強の成果としては、出発前より元々得意だったスピーキング・リスニングはビジネスで使えるレベル、ライティング・リーディングは専門書以外は特に問題なくスラスラ読めるレベルまで到達することができました。ライティング・リーディングに関しては、ほぼ毎回の授業毎に課される、多量のリーディングやオンラインでなどの授業外課題やグループでのエクササイズが効果的でした。アウトプットの量が多いので、覚えた語をその場や近い未来にすぐ用いたため、出発前よりもよりビジネスで用いるような専門的な単語や言い回しを覚えることができました。また、ネイティブの言い回しが分からない時やレポートの添削をしてほしい時、またプレゼンなどの練習をしたい時は、Wrighting Centerに行けばある一定のレベルを保った信用のある分かりやすい学生講師の人たちが時間内で丁寧に教えてくれたので、そこでもいろんな形で語学を日々向上させることに成功しました。スピーキング・リスニングに関しては、とにかく一人でいる時間を極力少なくすることに成功し、その結果アメリカ訛りはもちろんの事、イギリス訛りやインド訛り、フランス訛りなど世界各国の癖のあるアクセントにも問題なく聞いて対応できるレベルまで持っていくことができました。具体的に述べると、日頃のスケジュールにも書かせていただいた通り、朝早くから授業がほぼ毎日あったため、同じ授業を履修しているスイスやドイツ、アフガニスタンなど他の国からの交換留学生と朝ご飯を授業後に食べる機会があり、次の授業が始まるまでに文化や授業内容、週末の予定にわたるまでたくさんの話題について英語を用いて議論する機会がありました。また、1学期目に受講していたPublic speakingの授業やMarketingの授業では頻繁にプレゼンテーションの機会があり、その練習段階でも自然な言い回しや語彙をインプット・アウトプットを繰り返すことによって、より自然に、またより早く正確に自分の考えを伝える訓練をすることができました。これらの具体的な経験の他にも、Hult Prizeにも参加しました。Hult Prizeとは、ビル・クリントン氏が後援している、ソーシャルグッド(社会貢献活動を促進する取り組み)の分野で世界最大規模の社会起業家コンテストです。本大会は、まずUNCWのキャンパス内の学生同士でコンペティションを行い、そこから勝ち上がったチームがボストンにあるMIT(マサチューセッツ工科大学)で全米の学生と戦う権利を得られる仕組みでした。今回私が参加した大会では、他アメリカ人学生2名を含めた1グループ(名前:ElectriCity)の一員として電力の消費を抑える画期的なコンセントのアダプターについて、全米で最もシェアの多い電力会社の一つであるDuke Energyの代表の方やその他有名企業の方たちを含むジャッジの前で、すべて英語でプレゼンテーションをさせていただきました。結果としては、2ラウンド中、1ラウンドを突破することに成功し最終選考で2チームのうちの1チームに食い込むことができました。目に見える結果も大きいものでしたが、やはり出場メンバー探しの段階からジャッジへの細かいマーケティング戦略の説明までのプロセスで、英語力はもちろんの事、より自発的な挑戦姿勢や自分の考えを最も効果的な形で伝えるビジネススキルも身に付けることができ、本当に良い機会となりました。今回の一年間の留学を通して、視点が将来達成したい目標に向かって大きくプラスの方向に広がり、期間や留学先・授業内容含めとてもいい機会だったと言えます。

今後留学する人へのアドバイス

とにかく恥ずかしがらずにいろんな人に気さくに話しかけてみるのが一番語学向上につながると思います。アジア人は西洋の学生に話しかけるのをためらう傾向がありますが、文化の差異の度合いが大きい西洋の学生ほど、仲良くなると今まで外からでは全く知りえなかった色んなことが学べます。最初のころは、着いたばかりなので、他の学生もそんなに流暢はありませんし、恥の文化ではないので誰も他の人の間違った経験や失敗した経験は気にしません。なので、一人で過ごす時間を極力最小にして、ルームメイトを持ってみたり、朝ご飯や夕食、授業後の図書館での自習など、いろんな場面で色んな国の人と仲良くなるチャンスを十分に生かしてください。特に留学生はみんなとても明るい反面、とても優秀な人たちが多く、学校生活およびプライベートライフでも、留学中のとてもいい仲間になると思います。UNCWの場合、アメリカ南部のほうに位置しているので、休暇中にアメリカ南部を友達と一緒にドライブ旅行してみるのがおすすめです(レンタカーを借りる場合は、契約の際に必ず保険を付けてもらってください。アメリカではレンタカーへの保険は義務ではないので、万が一事故に会った際は状況がややこしくなる可能性が高いです)。アメリカ南部のほうは開拓時代からの古い文化や景色が多く残っているので、リアルなアメリカが楽しめると思います。一年といえども長い期間ではあるので、実りある留学になるよう精一杯やりたい事・やるべきことをやってきてください。

報告書記入日

2018年6月11日